

平成23年度富里市地域公共交通会議（第1回）会議録

日 時	平成23年6月20日（月） 午後2時～	場 所	富里市役所分庁舎 2階大会議室
出席委員	石橋規委員、飯高貞夫委員、池田和弘委員（中村光秀氏代理出席） 長谷川英利委員、内山雅広委員、植草とよ委員、佐々木努委員、丹さく子委員 米本健二委員（山崎一也氏代理出席）、鶴沢尚夫委員、篠崎秀樹委員、田中希生委員、中野善敦委員		
欠席委員	なし		
事務局	林田総務部長、 総務部企画課：中川課長、相川副主幹、栗原主査、池田主査補		
説明者	高齢者福祉課：吉池副主幹、和田主任主事		
内 容	<p>1. 開会</p> <p>2. 市長あいさつ</p> <p>3. 委嘱状の交付 ・相川市長から各委員に委嘱状が交付された。</p> <p>4. 委員紹介 ・自己紹介にて委員の紹介を行った。</p> <p>5. 議題 （1）富里市地域公共交通体系検証調査について【事務局説明】 「質疑・意見」 【委員】 路線バス運行について調査をするのはよいが、市の公共交通体系を検討するにあたり、さとバスが運行された時の当時の条件、さとバスで駅へ行きたいと要望がある時の路線バスの役割を考えて欲しい。さとバスは運行当初、路線バスと競合しないように福祉輸送を目的としてスタートした。年々、路線バスの利用者が減少しており、廃止につながっている。さとバスや路線バス、タクシーの役割はどういうものなのかを検討していただきたい。</p> <p>【事務局】 各々の役割について整理したい。</p> <p>【委員】 目的にある地域の特性は、現在・将来の2点の視点があるが、この会議ではどのように考えればよいか。</p>		

【事務局】

まずは現状把握が中心であり、続けて短い将来についても行っていくが、遠い将来については行わない。

【委員】

市の公共交通の検討は10年くらい前から行っているが、その時は交通弱者の救済がさとバス運行の目的だった。

経費は2000万からはじまり現在は1600万くらいであるが、経費の制約がない中で検討しても良いのか。

【事務局】

経費も重要な課題であり、本調査では可能性のあるものを検討し、初めから制約は設けない。導入の際は経費と効果を考慮して検討したい。

【委員】

その際には千葉交通や成田警察署にも入っていただきたい。

【委員】

アンケートの対象人数を教えてください。

【事務局】

3000世帯（全市の15%）を抽出予定である。

【委員】

駅へ向かうのが主な要望という意見があるが、高齢者は市の中心地と自宅の行き来というニーズがある。現在、市の北部にある日吉台から市中心まではタクシーで行っており、1人でも頻繁に動けるような公共交通を望んでいると思う。市の中心部が発展するには行き来が便利でないといけない。

【事務局】

どのような目的で何処へ行きたいのかをアンケート項目に入れて調査したい。

【委員】

これからアンケートをするが、他都市ではデマンド交通は1/10しか利用していないという事例もある。デマンドが良いとして、現在のさとバスと併用して運行するのか？

【事務局】

現在さとバスのような定期路線は人口密集の所でまかなえるのか、また、デマンド運行は比較的人口密度が少ない地域が対象となるのかなど、検証を進めていく中で、併用という案も出てくると考える。

【委員】

定期運行とデマンド運行の併用も考えているのか。

【事務局】

その通りである。

【委員】

市民アンケート調査とバスアンケート調査の質問は同じか、質問事項の

数といった概要を教えてください。

【事務局】

今回の会議を8月上旬に予定しており、それまでにアンケート内容を固めて事前に配布し、会議の場で議論いただきたい。現在はアンケート項目までは具体的にはまだ決定していない。

【委員】

市民アンケート調査とバスアンケート調査の内容は別か？

【事務局】

別のものになる。

【委員】

南平台から駅へ直接行くバスは今は無い。さとバスが駅に行くという事はないのか？

【事務局】

さとバスの駅への乗り入れについては、条件等の検討課題について整理したい。

(2) 道路運送法に基づく自家用有償旅客運送（富里市移送サービス事業）の登録更新について【事務局説明】

「質疑・意見」

【委員】

3年間で、死亡事故等があったか。

【事務局】

無事故である。

6. その他

「質疑・意見」

【委員】

バリアフリー関係で、バス事業者は路線バスにおいてノンステップバスを運行している。国へ申請を行うにあたり、今後の会議で審議が出来るようお願いしたい。

【事務局】

今後、議題として検討する。

7. 閉会

以上

